

科目名	看護理論			選択必修	選択
担当教員	筒井真優美				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	開講日 12:30 ~ 13:00
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 1. 看護学・看護科学における看護理論の意義を説明できる。 2. 看護実践と看護理論の関連について説明できる。 3. 看護理論の評価および今後の課題について述べるができる。					
■ 授業の概要 実践科学である看護学・看護科学の変遷を概観し、看護理論の役割・意義、および今後の課題を探究する。また、世界の動きに注目し、西洋と東洋を越えたグローバル化された看護理論と実践に活用できる中範囲理論を追究する。					
回	授業内容及び方法				担 当
1	看護学・看護科学（オリエンテーションを含む）				筒井
2	看護理論の概観				筒井
3	理論の構成要素と理論評価				筒井
4	看護実践課題と看護理論				筒井
5	看護実践課題と看護理論				筒井
6	看護実践課題と看護理論				筒井
7	日本における看護理論の概観				筒井
8	看護理論における今後の課題				筒井
■ 準備学習 修士課程で学んだ資料などがあれば持参してください。					
■ 教材・テキスト 筒井真優美編著(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院. 筒井真優美編著(2015). 看護理論—看護理論20の理解と実践への応用 改訂第2版. 南江堂.					
■ 参考書 ★Alligood, M. R. (2014). Nursing theorists and their work (8th ed.). St. Louis, MI: Elsevier. Chinn, P. L., & Kramer, M. K. (1995)/白石聡監訳(1997). 看護理論とは何か. 医学書院. Chinn, P. L. & Kramer, M. K. (2004)/川原由佳里監訳(2007). チン&クレイマー 看護学の総合的な知の構築に向けて. エルゼア・ジャパン. ★Chinn, P. L. & Kramer, M. K. (2017). Knowledge development in nursing: Theory and process (10th ed.). St. Louis, MO: Mosby, Inc. Fawcett, J.(1993). Analysis and evaluation of nursing theories. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. Fawcett, J. (1995). Analysis and evaluation of conceptual models of nursing. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. ★Fawcett, J. (1993)/太田喜久子・筒井真優美監訳(2008). フォーセット 看護理論の分析と評価. 医学書院. ★Fawcett, J. & Desanto-Maeda, S. (2013). Contemporary nursing knowledge: Analysis and evaluation of nursing models and theories (3rd ed.). Philadelphia, PA: F. A. Davis Company . George, J. B. (2011, 6th ed.)/南裕子・野嶋佐由美・近藤房恵(2013). 看護理論集 より高度な看護実践のために 第3版. 日本看護協会出版会. ★ Meleis, A. I. (2017). Theoretical nursing: Development and progress (6th ed.). Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins. Tomey, A. M. & Alligood, M. R. (2002)/都留伸子監訳 (2004). 看護理論家とその業績 第3版. 医学書院. Walker, L. O. & Avant, K. C. (2011) . Strategies for theory construction in nursing (5th ed.). Norwalk, CT: Appleton & Lange Walker, L. O., & Avant, K. C. (2005)/中木高夫・川崎修一(2008). 看護における理論構築の方法. 医学書院.					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業の取り組み 50% 課題のプレゼンテーション 50% 計 100%					
■ 教員からのメッセージ 看護における先達たちの情熱に触れながら、楽しく学び、自由に意見を述べ、他者と対話できるとよいと思います。 オフィスアワー：授業時間以外は、事前にアポイントメントをとってください。 メールアドレス tsutsui@redcross.ac.jp					

科目名	赤十字人道援助論			選択必修	選択
担当教員	東浦 洋				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	授業終了後およびメール (随時) にて受け付けます
開講時期	1・2 年次 後期	時間数	15 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>赤十字人道援助の原則、国際人道法、国際的な基準、現状と課題について習得し、援助事業の企画・実施・評価の分野において実際に行動できるようになること</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>世界の人道援助の課題と人道援助にかかわる国連、国際 NGO 等の主要国際機関の動向について検討し、赤十字が国内外で実施すべき人道援助について、歴史的な視点と具体的な活動事例を用いて教授する。</p> <p>また、赤十字の基本原則、武力紛争時に適用されるジュネーブ条約を中心とした国際人道法、および大規模災害時の国際救援からの学びから主要国際機関と協働して作成した国際救援最低基準（スフィア・プロジェクト）などについて検討し、将来具体的に活用できるようにするとともに、それらの改善に向け貢献できるようにする。さらに、途上国の開発援助における、主として保健・衛生分野の支援活動の現状を理解し、課題について探求する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	オリエンテーション、赤十字の起源と発達、赤十字基本原則、行動規範				東浦
2	国際人道法と看護師の権利・義務				東浦
3	世界の人道援助の課題と人道援助期間の動向				東浦
4	スフィア・プロジェクト				東浦
5	赤十字災害救護（国内）				東浦
6	赤十字災害救援（国際）				東浦
7	赤十字開発事業				東浦
8	赤十字人道援助の課題				東浦
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 授業終了時に示す内容について、復習しておくこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>The Sphere Project, Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response, 2011 Edition; Manual on the Rights and Duties of Medical Personnel in Armed Conflict; World Disasters Reports, etc.</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>国際人道研究ジャーナル各号、日本赤十字社、ICRC、IFRCなどのHP</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>課題レポート</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>赤十字の人道援助の実際と課題について知悉し、将来、赤十字の実際の活動現場と教育との連携協力を積極的に推進していく人材になっていただきたいと考えます。 オフィスアワー：事前にメールにて時間予約をしてください。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅰ（実験研究）			選択必修	選択
担当教員	根本昌宏、村林宏、姫野稔子、佐藤満				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	根本：17：00 - 18：00 (水) 村林：17：00 - 18：00 (月) 姫野：17：00 - 18：00 (金)
開講時期	1・2 年次 前期	時間数	15 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>設定した研究テーマに対して科学的根拠を明らかにするために有効な実験デザインと準実験デザインによる研究計画と各種測定手法を理解し、実践することができる。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>実験研究に不可欠となる動物およびヒトの生体で起こる現象を科学的に立証するための研究方法、生体反応など様々なバイオマーカーを利用した実験研究及び準実験研究の方法について教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	1. 実験研究を行うにあたって 2. 実験研究と倫理 3. 実験動物とその取扱い 4. 非臨床試験の概要と GLP 5. 薬の効果と有害作用の評価				根本
2	1. 実験動物代替法 2. バイオマーカーと疾患 3. 酵素免疫測定法の基礎 4. 酵素免疫測定法を用いたストレス評価 5. 生体反応・環境因子の評価手法				根本
3	1. 実験動物試料の扱い方 2. 組織試料作成方法 3. 組織染色の基礎 4. 抗原抗体反応の基礎				村林
4	1. 免疫組織化学法の手技 2. 実験結果の判定 3. 免疫組織化学法の応用 4. 画像作成時の注意				村林
5	1. ヒトを対象とする実験研究の倫理 2. 運動生理学の基礎 3. 体組成の測定法 4. 身体活動量の定量化				佐藤
6	1. バイオメカニクス（生体力学）の基礎 2. 至適運動強度の決定法 3. 筋電図による動作解析方法 4. 画像による動作解析方法				佐藤
7	1. 準実験研究デザインとは 2. 準実験研究の内容妥当性の考え方 3. 内容妥当性を高める方法				姫野
8	1. ヒトを対象とした準実験研究の具体的なプロセス－計画立案から分析まで－				姫野
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。講義後にレポート課題に取り組むこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>指定しない。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>必要に応じて提示する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>講義終了時に、各講師が課題を提示するので期限までに提出すること。 配点は各教員 25 点で、合計 100 点である。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>客観的評価法として重要な実験研究の内容ならびに技術を理解して、自らが計画、実行、評価、改善できるように学んで下さい。 人間を対象とした研究成果によって看護学を発展させていきましょう。（姫野）</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅱ（臨床介入研究）			選択必修	選択
担当教員	伊藤善也、西片久美子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	伊藤:12:00 - 13:00(火・水) 西片:18:00 - 19:00(月)
開講時期	1・2 年次 後期	時間数	15 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床介入研究に関する論文を批判的に読解するための基礎的な力を養う。 2. 臨床上的の問題を臨床介入研究により解決するための方法論を学ぶ。 					
<p>■ 授業の概要</p> <p>臨床現場で介入による治療・ケアの効果をj得るために臨床介入研究を計画し、遂行するプロセスについて教授する。介入のための方法論や結果分析法などについて実践的に教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	概論1：臨床研究のなかに位置づけられる臨床介入試験の概要を理解する。				伊藤
2	概論2：実施にあたって基礎となる非臨床試験、生物統計学や研究倫理について学ぶ。				伊藤
3	臨床介入試験の設計1：薬剤を含む医療技術を開発するための臨床介入試験の設計について学ぶ。				伊藤
4	臨床介入試験の設計2：有効性、安全性と非劣性（優越性）を検証する試験を薬剤の開発を具体例にして理解する。				伊藤
5	臨床介入試験の実施：実施計画書の作成、実施体制の構築、研究の実施までの流れを治験を例にして理解を深める。				伊藤
6	臨床介入試験の評価および実践：実施した臨床介入試験の結果をまとめ、他の臨床試験と比較する方法論について学ぶ。				伊藤
7	看護における臨床介入研究の特徴と意義および限界について、治験等と比較しながら理解する。また、主な看護の臨床介入研究について概観する。				西片
8	看護における臨床介入研究のためのプロトコルの作成と介入の実際、および論文のまとめ方について、具体例をもとに学ぶ。				西片
<p>■ 準備学習</p> <p>講義の1週間前に授業内容の理解を進めるための資料を提示するので、講義を受けるまでに学習してください。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>指定しない。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>必要に応じて提示する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>講義終了時に各講師より提示されたテーマでレポートを作成する。配点は伊藤担当分:74点、西片担当分:26点で、合計100点である。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>看護師として臨床介入研究を立案・設計・実施できるような知識を身につけ、実践できるように取り組んでください。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅲ（尺度開発）			選択必修	選択
担当教員	河口てる子、中野実代子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	河口 土 16～18時 中野 水 17～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>量的な観点から看護学における現象を探究するために、測定したい現象を概念化し、その概念を尺度化する尺度開発のプロセスを教授する。さらに、看護学の基盤を発展させるための尺度の活用方法について教授する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>講義内容をもとに尺度開発に関する文献検討により深めた内容のプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	測定したい現象を尺度化するプロセス				河口・中野
2	アイテムプールとワーディング				河口・中野
3	尺度の信頼性の検討				河口・中野
4	尺度の妥当性の検討				河口・中野
5	翻訳尺度の作成プロセスおよび妥当性と信頼性の検討				河口・中野
6	下位尺度をもつ尺度の構成と得点化				河口・中野
7・8	尺度開発に関する文献のクリティーク				河口・中野
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業参加状況（プレゼンテーション 50%、討議内容 50%）で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅳ（質的研究）			選択必修	選択
担当教員	小林裕美、石崎智子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	小林：12：20 - 13：20(火) 石崎：17：00 - 19：00(火)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>1) 看護研究における質的統合法（KJ法）の活用の意義について理解できる。</p> <p>2) 質的統合法（KJ法）におけるデータ分析の手法を体験し、質的統合法の方法論としての特徴を理解できる。</p> <p>3) 看護研究における現象学的研究の意義と目的について理解できる。</p> <p>4) 現象学的研究におけるプロセスを理解し、看護研究への活用を思索できる。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力を培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、質的統合法（KJ法）および現象学的研究プロセスを展開できるよう教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担当
1	看護研究とKJ法				小林
2	質的統合法（KJ法）におけるデータ分析(1)－データの単位化、グループ編成－				小林
3	質的統合法（KJ法）におけるデータ分析(2)－図解と叙述化－				小林
4	質的統合法（KJ法）の活用と発展				小林
5	看護研究と現象学				石崎
6	現象学的研究における「研究者」と「事象」				石崎
7	現象学的研究におけるデータ収集の方法				石崎
8	現象学的研究におけるデータ分析の手法				石崎
<p>■ 準備学習</p> <p>質的統合法（KJ法）については、参考書「発想法」を読んだことのない人は初回までに読んでおくこと。その後は、模擬データで分析を一部実施するため、それに伴う課題を提示する。</p> <p>現象学的研究については、「現象学的思考とは」について文献リスト等を参考にし、各自準備の上参加してください。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>・山浦晴男：質的統合法入門 考え方と手順. 医学書院, 2012.</p> <p>・松葉祥一、西村ユミ編集：現象学的看護研究－理論と分析の実際. 医学書院, 2014.</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>・川喜田二郎：発想法. 中公新書, 1996.</p> <p>・ホロウェイ、ウィーラー（野口美和子監訳）：ナースのための質的研究入門. 医学書院, 2010.</p> <p>・その他、適宜講義の内容毎に文献を紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>質的統合法（KJ法）に関する課題レポート（50%）（質的統合法（KJ法）の学習によって得られた「帰納的な観点からの探究の意味について」の自己の考えが論述されているかを評価する）</p> <p>現象学的研究に関する課題レポートおよびプレゼンテーション（50%）（課題に対して探究した内容のプレゼンテーション、および形式を踏まえ適切に論述されたレポート等の完成度で評価する。）</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>質的統合法は、KJ法つまり野外科学におけるアブダクションに基礎をおくが、複雑な看護現象を明らかにできる方法論と考えている（小林）。現象学的研究は、長い歴史をもつ哲学を起源にしているため、難しいと受け止められがちであるが、看護者自身の経験や現に存在している世界を解釈し、了解するために有意義な方法であると考えている（石崎）。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅴ（文化人類学的研究）			選択必修	選択
担当教員	鈴木清史				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	12:20 - 13:20(火～木)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>文化人類学的資料収集法と資料の記述、まとめ方そして分析に関わる基本的知識を学ぶ</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力を培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、文化人類学的研究プロセスを展開できるような文化人類学領域におけるデータ収集、分析の方法論を教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	文化人類学的研究の特徴				鈴木
2	研究対象の多様性				鈴木
3	フィールドワークについて ① 特徴				鈴木
4	フィールドワークについて ② 可能性と限界				鈴木
5	フィールドノートと民族誌				鈴木
6	資料のまとめ方				鈴木
7	資料の分析				鈴木
8	看護分野における文化人類学の汎用性と限界				鈴木
<p>■ 準備学習</p> <p>文化人類学や社会学の入門書をとおして基本的な概念整理をすること。文献はとくに指定しない。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>テキストおよび教材は適宜紹介する</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>T. H.エリクセン『人類学とは何か』(鈴木清史訳)世界思想社 2008 T.H. エリクセン『エスニシティとナショナリズム』(鈴木清史訳)明石書店 2006 A.クーパー『人類学の歴史』(鈴木清史訳)明石書店 2001年(特に第1章)</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業への参加 40% / 期末レポート 60% 授業の進捗や展開の仕方によって小レポートによる課題などを実施し、授業への参加の評価として勘案します。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>授業で取り上げたり紹介したり文献以外にも触れることを心がけてください。授業の進捗具合によって授業展開を対応することがありますので、ご了解願います。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅵ（理論構築）			選択必修	選択
担当教員	河口てる子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	土曜日 16～18時
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>看護学と看護実践に有用な理論を構築するため、演繹的アプローチと帰納的アプローチを用いた理論構築方法、および理論の実践場面における活用方法について教授する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護実践モデルを構築するまでのプロセスと慢性疾患看護の実践場面における活用方法について、具体例を用いながら教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	理論開発の背景、レベル				河口
2	理論開発の要素、アプローチ、方法				河口
3	概念統合、概念統合へのアプローチ				河口
4	概念導出、概念分析、立言統合、立言導出、立言分析				河口
5	理論統合、理論統合の手順				河口
6	理論導出、理論分析、理論分析の手順				河口
7	理論の検証				河口
8	理論開発の具体例、活用例				河口
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業参加状況（プレゼンテーション 50%、討議内容 50%）で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>主体的な取り組みを期待する。</p>					

科目名	臨床倫理論			選択必修	選択
担当教員	柳井圭子、石崎智子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	柳井：12：30 - 13：20(木) 石崎：17：00 - 19：00(火)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>臨床倫理に関する基礎理論から実践的アプローチを修得し、教育的・指導的立場に立って後進の育成および臨床倫理委員会において中心的な役割を果たせるよう倫理的課題を探究する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>臨床現場で遭遇する倫理的諸課題に対して、社会的ニーズの多様化に即した適切な対処ができるよう、臨床倫理および医療マネジメントの基本原則と重要概念を教授する。看護学の領域において、今後の医療における倫理的役割の重要性と必要性を理解し、医療倫理と医療マネジメントを応用実践できるように教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	臨床倫理に関する基礎理論から倫理的意思決定モデルを検討する				柳井
2	法制度状況から生じる倫理的課題を国内外の文献をとおして検討する				柳井
3	法的問題とその解決策から、臨床の倫理的諸問題を考察する				柳井
4	倫理コンサルテーションとしての看護者の役割を考察する				柳井
5	事例で考える臨床現場の倫理的課題1：医療・福祉施設で遭遇すること				石崎
6	事例で考える臨床現場の倫理的課題2：地域・社会のなかで看護者としてかかわること				石崎
7	事例で考える臨床現場の倫理的課題3：生命の始期と終期に関すること				石崎
8	「いのちの倫理的受託者」としての看護者の役割を見いだす				石崎
<p>■ 準備学習</p> <p>教員より提示される課題を文献リスト等を参考に準備の上、参加ください。プレゼンテーションを担当する場合には、教員および参加者に資料また必読文献を事前配付をし、活発でかつ実のある討議ができるよう配慮ください。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>指定はしません。受講者には授業開始前に参考文献リストを配付します。</p>					
<p>■ 参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮坂道夫：医療倫理学の方法－原則・手順・ナラティブ。医学書院，2005. ・藤野昭宏監訳：病院倫理入門－医療専門職のための臨床倫理テキスト，丸善出版，2011. ・福井次矢、浅井篤、大西基喜編集：臨床倫理学入門、医学書院，2003. ・Herman Wheeler, Law, Ethics and Professional Issues for Nursing, Routledge, USA,2012. ・その他、講義の内容毎に文献を紹介する。 					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>①授業への参加度・プレゼンテーション（50%） 討論への参加状況、プレゼンテーション内容を評価します。</p> <p>②課題レポート（50%） 課題に対して探究した内容であり、形式を踏まえ適切に論述されているか等、レポートとしての完成度を評価します。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>臨床は、さまざまな倫理的問題が日常的に発生している場です。その中から課題を見出し、互いに刺激しあい、知識を増やし倫理的課題について学際的な対話を行いましょ。そのような討論が、臨床ケア現場で活かされることを期待しています。</p>					

專門科目

科目名	看護人材開発特論			選択必修	選択
担当教員	小山真理子、本田多美枝、柳井圭子、山田聡子				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	小山：17：00 - 18：00(火) 本田：12：10 - 13：10(金) 柳井：12：30 - 13：20(木) 山田：17：00 - 18：00(水)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について理解し、実践への応用について考察する 2. 看護の質を高めるための継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論について考察する 3. 看護・看護教育に関わる政策的課題を明確化し、政策立案を通じて質の高い看護を組織的に行うための方策について考察する 					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について学ぶ。さらに、看護の質を高め、継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論を探究し、課題を発見し、新しい知を構築する能力を修得する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	人材開発についての諸理論と看護教育への応用				小山
2	看護人材開発に関する日本の研究の動向				小山
3	看護人材開発に関する海外の研究の動向				小山
4	看護人材開発に関する国内外の研究のクリティーク				小山
5	看護人材開発プログラムの開発				小山
6	継続教育システム構築の基礎となる諸理論（キャリア開発、組織学習理論等）				本田
7	エキスパートナース育成に関連する諸理論（リフレクション、熟達化、省察的实践）				本田
8	継続教育システムの構築、エキスパートナースの育成に関する研究の動向				本田
9	継続教育システムの構築、エキスパートナース育成のプログラム開発				本田
10	臨地実習指導者の育成に関する現状と課題				山田
11	臨地実習指導者に関する研究の動向				山田
12	看護実践能力を育成する臨地実習指導者の能力の育成				山田
13	日本の医療制度改革の考察と看護をめぐる政策的課題				柳井
14	医療・保健における政策決定過程に関する研究から見出される課題検討				柳井
15	看護人材育成のための政策的課題の明確化と新たな法政策案の策定				柳井
<p>■ 準備学習</p> <p>各教員から提示される文献リスト等を参考に、事前学習を行い、授業に参加する。院生がプレゼンテーションを行う際には、必読文献やプレゼンテーション資料を事前にメール等にて配布し、各自が主体的に参加できるように準備する。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>テキストは指定しない。最新の参考文献を授業開始時に紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>最新の文献を含め、適宜紹介する</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業への参加度・プレゼンテーション（50%）、課題レポート（50%）から総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 討論への参加状況やプレゼンテーション内容から評価する （小山・本田：各15点、山田・柳井：各10点） ② 課題に対して探究した内容が適切にレポートとして論述されているか 					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>授業は、内容ごとに①諸理論と実践への応用、②研究の動向、③プログラム開発（システム開発、政策提言）に向けた検討、という構成で進めていきます。各自がクリエイティブに考え、現状と課題を踏まえ、新たな観点から看護人材開発のあり方について探究していくことを期待しています。</p>					

科目名	実践看護学特論			選択必修	選択
担当教員	植田喜久子、百田武司				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	植田：17：00 - 18：00(水) 百田：17：00 - 19：00(火)
開講時期	1・2前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>1) 脳卒中後遺症における諸理論や既存の研究成果を概観し、ベストプラクティスを提供するための理論と方法論について学ぶ。さらに、患者・家族のアウトカムを向上させるための理論や方法の開発について探求する。</p> <p>2) がん看護領域で活用されている諸理論や研究成果を概観し、がん患者や家族の多面的な課題、診断・治療期、リハビリテーション期、終末期に対応した質の高い看護ケアについて探求する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>脳卒中やがんなど生活習慣病とともに療養生活を営む人間や健康に対する諸理論や既存の研究成果を概観し、成長発達段階と健康障害のレベルを融合した観点から、その人がより健康に生活していくための健康上の問題や研究課題を探求し発見する能力を修得する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	脳卒中後遺症における諸理論、歴史的変遷、概念の検討①				百田
2	脳卒中後遺症における諸理論、歴史的変遷、概念の検討②				百田
3	脳卒中患者に関する既存の研究成果についての検討①				百田
4	脳卒中患者に関する既存の研究成果についての検討②				百田
5	脳卒中後遺症患者に対するベストプラクティスを提供するための理論と方法論の探求①				百田
6	脳卒中後遺所患者に対するベストプラクティスを提供するための理論と方法論の探求②				百田
7	脳卒中後遺症患者のアウトカムの測定に関する検討①				百田
8	脳卒中後遺症患者のアウトカムの測定に関する検討②				百田
9	脳卒中患者の生活機能やQOLの向上に向けたに関する研究方法の探求				百田
10	がん患者の体験や生活課題に関する文献検討				植田
11	診断・治療期、がんリハビリテーション期、終末期における課題の文献検討①				植田
12	診断・治療期、がんリハビリテーション期、終末期における課題の文献検討②				植田
13	がん患者や家族における倫理的課題に関する文献検討				植田
14	がん患者や家族に対する援助に有用な理論や概念の文献検討				植田
15	がん患者や家族における援助の体系化に関する検討				植田
<p>■ 準備学習</p> <p>授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>特になし</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>各授業の中で適宜紹介する</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>①授業への参加度と貢献度 (10%) ②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容 (60%) ③レポートの作成 (30%)</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>文献検討を深めることで、学生自身の研究課題や研究の方法論を探究していきます。</p>					

科目名	療養生活看護学特論			選択必修	選択
担当教員	河口てる子、石崎智子、中野実代子				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	河口 土 16～18時 石崎 火 17～19時 中野 水 17～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>1) 健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育について探求する。</p> <p>2) 健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する諸理論や研究成果を概観し、健康の捉え方を活用した看護実践について探求する。</p> <p>3) 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方について探求する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>健康課題をもつ人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な技術、援助および教育方法などを探求する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1～2	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する研究のクリティーク				河口
3～4	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する概念/理論の探究・分析				河口
5～6	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する課題の明確化				河口
7	健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する研究のクリティーク				中野
8～9	健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する研究における概念/理論の探究・分析及び課題の明確化				中野
10～11	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する研究のクリティーク				石崎
12～13	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する概念の探究・分析				石崎
14～15	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関するテレビ会議システムを活用したメディア教材の視聴と討議による課題の明確化				石崎
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業参加状況（討議・発表等：50%、レポート 50%）で総合的に評価する。</p> <p>①自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。 ②レポートが課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

科目名	生涯発達看護学特論		選択必修	選択
担当教員	大西文子、安藤広子、野口眞弓、西片久美子			
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間	
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先端生殖医療や遺伝医療における患者とその家族への看護支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 2. 子育ての中核にある、出生直後からの母子を取り巻く母乳育児のアセスメントの実際と、母乳のケアを通じた乳児の健全な発育を支援する、地域の助産師・看護師の役割と実践について、理解できる。 3. 小児期のでんかんやネフローゼ等の子どもとその家族の生涯発達支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 4. 認知症とともに生きる高齢者および慢性疾患とともに生活する成人とその家族の生涯発達支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 				
<p>■ 授業の概要</p> <p>生涯発達理論を基盤とし、胎児期から老年期までの患者とその家族を対象に、それぞれの時期に生じやすい健康課題を明確にし、各段階に応じた生涯発達支援に向けた専門的な看護援助方法について、国内外の研究の知見を交えて教授する。</p>				
回	授業内容及び方法			担当
1	先端生殖医療における看護の現状からの課題をもちより、援助方法を討議する。			安藤
2	遺伝医療における看護の現状からの課題をもちより、援助方法を討議する。			安藤
3	出産体験に影響をする要因および出産体験が及ぼす影響について検討し、出産時の援助方法について討議する。			野口
4	母乳育児を可能にするための援助方法について検討する。			野口
5	育児期のソーシャルサポートの効果について検討し、ソーシャルサポートのあり方について討議する。			野口
6	妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援 日本版「ネウボラ」構想を実現するための課題や方略について探求する。			野口
7	小児期にてんかんをもつ子どもとその家族を理解するための理論、概念、モデルについて、探究する。			大西
8	小児期にてんかんの子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、討議する。			大西
9	小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族を理解するための理論・概念・モデルについて、探究する。			大西
10	小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、討議する。			大西
11	糖尿病患者とその家族を理解するための理論、概念、モデルについて探求する。			西片
12	文献のクリティークを通してエビデンスに基づく糖尿病患者に対する援助方法を探求する。			西片
13	高齢者および認知症高齢者理解のための理論的基盤について探求する。			西片
14	エビデンスに基づく認知症高齢者に対する援助方法を探求する。			西片
15	高齢者の看取りをとらえる概念枠組みと援助方法について探求する。			西片
<p>■ 準備学習</p> <p>事前学習課題を提示いたしますので、科目を選択される学生さんは、授業開始の2週間前までにはご連絡をお願いいたします。</p>				
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適宜紹介する</p>				
<p>■ 参考書</p> <p>適宜紹介する</p>				
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>各担当教員からの課題（50％）に加えて、プレゼンテーション評価（20％）やディスカッションへの参加状況（20％）、参加度（10％）を合わせて評価とする。 配点は、大西担当分 27点、安藤担当分 13点、野口担当分 27点、西片担当分 33点の合計 100点である。</p>				
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>ライフサイクル全体を俯瞰し、看護の対象となる人の生涯発達上の課題を明確にしたうえで、その人なりの健康を維持・増進できるような方略をともに探求していきたいと考えています。主体的な学習を期待します。</p>				

科目名	広域連携看護学特論			選択必修	選択
担当教員	眞崎直子、高橋清美、鈴木聖子、小林裕美、姫野稔子				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	適宜。事前にご連絡ください 高橋：メール連絡の上、相談 小林：12：30～13：20（金） 姫野：17：00～18：00（金） 眞崎：10：00～12：00（金）
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
■ 授業の目的 1) 地域におけるメンタルヘルスケア、難病患者等在宅ケアを概観し、多職種の連携・調整の分析および課題の明確化のための理論や方法について検討する。 2) メンタルヘルスケアにおける地域連携や教育に関する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、重要と考えられる主要な理論・方法論を検討する。また、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。 3) 地域で在宅療養する終末期の人々とその家族に対する支援と広域・多職種連携のあり方に関する研究のクリティーク、概念/理論の探究・分析および課題の明確化について検討する。 4) 在宅高齢者の療養生活および介護予防に関する研究のクリティーク、概念/理論の探究・分析および課題の明確化について検討する。 5) 地域で生活する認知症の人とその家族への支援・多職種連携に関する研究のクリティーク及び課題について検討する。					
■ 授業の概要 人々が地域・在宅において、心身の健康と質の高い生活を維持できるよう、状況に即した柔軟な看護ケアを継続的・シームレスに提供するための治療的環境整備の方法、地域社会連携の改善・変革、多職種との連携・調整の在り方についての問題や研究課題を探究する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	メンタルヘルスケア、難病患者等在宅ケア等に関する文献検討				眞崎
2	メンタルヘルスケア、難病患者等地域における多職種連携の課題に関する文献検討				眞崎
3	メンタルヘルスケア、難病患者等地域における社会連携の課題と改善に関する検討				眞崎
4	メンタルヘルスケア、難病患者等地域の継続的ケアに有用な理論や概念の検討				眞崎
5	メンタルヘルスケアにおける地域連携や教育に関する理論・方法論				高橋
6	メンタルヘルスケアに関する研究論文の動向				高橋
7	認知症の人のケアに関する文献検討				鈴木
8	地域で生活する認知症の人のケアの課題等に関する文献検討				鈴木
9	地域で生活する認知症の人のケアに関する理論の検討				鈴木
10	在宅療養する終末期の人々と家族に対する支援に関する概念/理論の検討				小林
11	在宅療養する終末期の人々と家族に対する支援に関する研究のクリティーク				小林
12	在宅療養する終末期の人々と家族に対する多職種連携に関する研究のクリティーク				小林
13	高齢者の療養生活や介護予防等に関する研究論文の文献検討				姫野
14	高齢者の療養生活や介護予防のケア介入等に関する文献検討				姫野
15	高齢者のケアに有用な理論・概念の検討				姫野
■ 準備学習 授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。					
■ 教材・テキスト 各授業の中で適宜紹介する					
■ 参考書 各授業の中で適宜紹介する					
■ 成績評価の方法及び採点基準 ①授業への参加度と貢献度（10%）②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容（40%） ③レポートの作成（50%）					
■ 教員からのメッセージ 文献検討を深めることで、自己の研究課題や研究の方法論を多角的に探究していきます。 メンタルヘルスケアに対する問題意識や、自己の取り組みたい課題を考えて参加すること（高橋） 在宅療養する終末期の支援について、ともに検討できればと思う（小林） 主体的なとりくみを期待します（姫野） メンタルヘルス、難病患者支援等地域課題解決に向け考えて参加することを期待します。（眞崎）					

科目名	災害救護特論			選択必修	選択
担当教員	中信利恵子、小原真理子、山勢善江				
科目区分	専門科目	単位数	2単位		オフィス アワー
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
■ 授業の目的 国内外の災害の動向と課題を探究し、災害医療や災害看護に関連する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。					
■ 授業の概要 1) 災害看護領域における現象や看護実践の分析、活用されている諸理論や先行研究の研究成果を概観し、災害サイクルの各期の質の高い看護ケアを行うための看護の課題を探究する。また、災害が被災者や救援者に及ぼす影響、看護実践に活用できる理論や方法論について教授する。 2) 官・民・学が一体となり取り組む地域防災を基盤に、要配慮者の震災関連死を防ぐ対応、そして法・制度について探究し、看護の役割を検討する。災害中長期における被災者支援と、被災者を取り巻く組織間連携に関する看護の課題について探究する。 3) 災害サイクルの急性期のケアに関する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。また、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	災害や災害看護領域における現象や看護実践に関する文献検討				中信
2	災害看護において活用されている諸概念や理論に関する文献検討				中信
3	災害が被災者や救援者に及ぼす影響に関する文献検討				中信
4	災害や災害医療・災害看護における倫理的課題に関する文献検討				中信
5	被災者に対する看護実践に必要な看護の方法論の探求				中信
6	災害看護を行う看護者への支援方法の探求（1）				中信
7	災害看護を行う看護者への支援方法の探求（2）				中信
8	官、民、学が一体となり展開する地域防災の意義や方法論の探究				小原
9	震災関連死の現状分析と災害時要配慮者を取り巻く法・制度に関する文献検討				小原
10	災害時要配慮者、避難行動要支援者の健康と避難生活支援方法の探究				小原
11	災害中長期における被災者支援と、被災者を取り巻く組織間連携に関する文献検討と現状				小原
12	災害サイクルの急性期ケアに関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析（1）				山勢
13	災害サイクルの急性期ケアに関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析（2）				山勢
14	災害サイクルの急性期ケアに関する課題解決に向けた方法論の適用（1）				山勢
15	災害サイクルの急性期ケアに関する課題解決に向けた方法論の適用（2）				山勢
■ 準備学習 次回の授業内容や方法について、適切な文献を活用して事前に学習し、専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。					
■ 教材・テキスト 授業内容に関するPPT資料やDVDを提示すると共に、適宜、ミニシミュレーションを取り入れ、参加型授業を展開する。(小原) 適宜紹介する。					
■ 参考書 授業の中で適宜紹介する(中信) 授業の中で紹介する(小原) Rocert Power, Elaone Daily, et al. : International Disaster Nursing. Cambridge University Press. 2010 (山勢)					
■ 成績評価の方法及び採点基準 次の①～③で総合的に評価を行う。 ①授業への参加姿勢と貢献度（10%）：自発的な質問、発言などをして積極的に授業に参加したか ②文献検討に基づいたプレゼンテーションの内容（40%）：文献検討を行い根拠に基づいた資料を作成し、自己の意見を明確にしてプレゼンテーションが行っているか ③レポートの作成（50%）：レポートが課題に対して適切な内容でまとめられているか					
■ 教員からのメッセージ 文献検討とディスカッションを深めていく中で、博士論文の研究課題や研究方法論を探究していきます。(中信) 地域に暮らす災害時要配慮者の平時における健康・生活上の課題を理解することが、災害時の対応に繋がります。地域に根差した災害看護のあり方を探究していきます。(小原) 災害急性期は、個人および集団の心身に危機をおよぼします。この時期特有の看護を探究していきます。(山勢)					

科目名	健康科学特論			選択必修	選択
担当教員	島井哲志、佐藤満				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	島井 月17時-18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団を対象とした健康増進のアプローチを理解する 2. 集団を対象とした多様なアセスメント法と介入法を理解する 3. 多職種による介入とそのマネジメントを理解する 					
<p>■ 授業の概要</p> <p>地域や職域などの集団に介入して、そのウェルビーイングを高めることは、ヒューマンケアの目標のひとつである。このために、保健医療専門家は、集団を構成する多様な人たちの健康に関連する諸要因を、科学的・統計的に分析して、適切な介入方法を考案し、その実践をクリティカルに評価することが必要である。ここでは、国内外の知見を紹介し、全員で討議して理解を深める。</p>					
回	授業内容及び方法				担当
1	総論：ウェルビーイングの多面的評価				島井
2	健康増進とウェルビーイングを取り巻く諸要因				島井
3	健康科学の方法論①				島井
4	健康科学の方法論②				島井
5	地域の課題から地域政策の立案へ				島井
6	保健指導の課題と今後①				島井
7	保健指導の課題と今後②				島井
8	ワーク・ライフ・バランスと職場のメンタルヘルス				島井
9	国際社会及び我が国での健康増進への取り組み				佐藤
10	身体計測学とその理論				佐藤
11	身体機能測定の意味とその方法				佐藤
12	健康運動プログラムの作成①-メタボリック・シンドロームへの対応				佐藤
13	健康運動プログラムの作成②-ロコモティブ・シンドロームへの対応				佐藤
14	生活習慣病予防のための効果的な身体運動				佐藤
15	転倒・介護・認知症予防のための科学的な身体運動				佐藤
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲・課題などについて、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>特に指定しない。関係書籍・論文等を広く活用する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>適宜紹介します。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業へ積極的参加・討論 (30%)、プレゼンテーション (35%)・レポート (35%) により、総合的に評価する。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>健康の保持・増進には身体運動が欠かせません。医療従事者として、その正しい知識を身に付け多くの人々の健康の保持・増進に貢献できるようにしましょう！</p>					

演習科目

科目名	看護学演習		選択必修	必修
担当教員	河口てる子、石崎智子、西片久美子、中野実代子、安藤広子、鈴木聖子、山田典子、大西文子、東野督子、山田聡子、野口眞弓、小山眞理子、植田喜久子、眞崎直子、中信利恵子、百田武司、小林裕美、高橋清美、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子、山勢善江、乗越千枝、守山正樹			
科目区分	演習	単位数	2 単位	オフィス アワー 教員一覧参照
開講時期	1 年次 通年	時間数	60 時間	
<p>■ 授業の目的</p> <p>看護学演習は、合同研究ゼミナール、特別研究へつなぐ授業科目と位置づける。国内外の文献検討やフィールドワーク、ディスカッションを行うことにより、研究テーマを絞り込み、明確にする。必要とされる理論と方法論、技法等を習得し、研究課題から研究方法を検討し、研究計画書を作成することを目的とする。</p>				
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護学とその隣接領域において、国内外の文献を検討材料とし文献レビューを行い、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域において課題解決が必要とされるテーマ、研究課題の明確化及び研究方法を検討する。さらに、課題解決に必要なとされる理論と方法論、技法について実証的に探求する手法を習得する。</p>				
回	授業内容及び方法			担 当
	<p>【授業の進め方】</p> <p>各担当教員と相談し、関心のある研究テーマについて以下の通り演習を行う。</p> <p>1～8 関心のある研究テーマに関する文献検討</p> <p>9～14 研究テーマの明確化</p> <p>15～20 研究テーマに関するフィールドワークとディスカッション</p> <p>21～28 研究テーマに関する研究デザインの検討</p> <p>29～30 プレゼンテーションとディスカッション</p>			
<p>■ 準備学習</p> <p>授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。</p>				
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>				
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>				
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>文献レビュー、プレゼンテーション、討議内容から総合的に評価する。</p>				
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>				

研究指導教員名と指導の概要

・河口 てる子

看護援助モデルや教育支援モデルなど実践看護に求められる教育・支援及び慢性疾患をもつ人とその家族への援助について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・石崎 智子

療養生活を送る人々やその支援者のメンタルケアに焦点を当てたメンタルヘルスの在り方について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・西片 久美子

糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる成人・高齢者とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・中野 実代子

慢性疾患とともに療養生活を営む人々の生活者としての視点を踏まえた健康の捉え方と看護実践への適用について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・安藤 広子

出生前検査や不妊治療など先端生殖医療や遺伝医療の現場における看護の課題、および先天性疾患患者（児）とその家族への看護支援の課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・鈴木 聖子

認知症の人と家族の医療、福祉、看護をめぐる現象や課題を明らかにするために国内外の文献研究を行い研究課題の明確化とともに研究方法を検討する。

・山田 典子

虐待や暴力被害にあった患者が増える昨今、人間と環境を統合的・創造的に捉え、人間の尊厳とは何か、看護とは何か考え、それぞれの持ち場で責任と役割を果たすために、国内外の関連領域の文献レビューを行い、自らの研究課題を焦点化することができる。

・大西 文子

てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・東野 督子

療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や教育プログラムに関する研究課題の焦点化と方法論の検討について教授する。

・山田 聡子

看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法、および臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する研究課題の明確化と研究方法を検討する。

・野口 眞弓

在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・小山 眞理子

看護教育や看護実践における現象を分析し、課題を解決するためのエビデンスに関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・植田 喜久子

がん患者や家族およびがん医療や看護をめぐる現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、自己の研究課題および研究方法論を検討する。

・眞崎 直子

地域におけるメンタルヘルスと難病患者等在宅ケアに関する文献研究を行い、自己の研究課題の明確化及び研究方法論を検討する。

・ 中信 利恵子

災害サイクルの各期における災害医療や看護活動における現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、研究課題の明確化とともに研究方法論を探求する。

・ 百田 武司

特論で学んだ、ベストプラクティスを提供し、脳卒中後遺症患者・介護家族のアウトカムを向上させるための理論や方法について理解を深め、実際に研究として展開する際の計画書を作成する。

・ 小林 裕美

地域で在宅療養する終末期の人を看取る家族に対する看護支援モデルや教育支援モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・ 高橋 清美

メンタルヘルス領域における摂食嚥下障害や摂食嚥下機能支援に関する国内外の文献レビューを行い、研究課題の明確化や研究方法を検討するとともに、摂食嚥下障害や摂食嚥下機能不全を解決するために必要とされる理論や方法論、技法について実証的に探究することを学修する。

・ 姫野 稔子

在宅高齢者に対する看護介入の効果ならびに看護介入モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・ 本田 多美枝

専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論、実践から学ぶ方法、実践能力の開発・熟達化に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・ 柳井 圭子

質の高い看護・人材開発を支えるための法政策に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・ 山勢 善江

クリティカルケアにおける家族看護の構造モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、課題に適切な研究方法を吟味する。

・ 乗越 千枝

急性期病院入院患者の退院計画や退院支援モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・ 守山 正樹

組織・集団、地域・コミュニティにおける健康生活支援に関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、課題に適切な研究方法を吟味する。

合同研究ゼミナール科目

科目名	合同研究ゼミナール			選択必修	必修
担当教員	河口てる子、石崎智子、西片久美子、中野実代子、安藤広子、鈴木聖子、山田典子、大西文子、東野督子、山田聡子、野口眞弓、小山眞理子、植田喜久子、眞崎直子、中信利恵子、百田武司、小林裕美、高橋清美、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子、山勢善江、乗越千枝、守山正樹				
科目区分	演習	単位数	1 単位	オフィス アワー	教員一覧参照
開講時期	1 年次 後期	時間数	30 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>学生が学籍を置く大学での個人指導と、5 大学の学生・教員が一堂に会して行う集合教育を組み合わせることにより、異なる専門性の観点から学生が現段階で考えている研究について、学生相互または教員とのディスカッションにより多角的に検討し、実現可能な研究に向けての方向性を見出せるよう教授する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>学生個々が現段階で考えている研究テーマあるいは、関心のあるテーマに関する内容、方法、意義等について学生が学籍を置く大学で個人指導を受け、その成果を集合して、5 大学の学生・教員の前で発表することにより、学生が学籍を置く大学での個人指導がさらに深まり、博士論文作成に向けた糸口の発見や研究を遂行する過程での課題が抽出されるなど、今後の方向性が明確となる。また、対面による交流の場をもつことで、博士論文作成に引き続き取り組む上での研究者としての資質を培う。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1～5	<p>【授業の進め方】</p> <p>6～13 回は、5 大学の中心地点にある日本赤十字看護大学（東京都）に集合して、2 日間の日程で、共同開催する。その前後は、主研究指導教員からの指導を受ける。</p> <p>研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する発表にむけた資料作成（各大学）</p>				
6～13	<p>研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する内容のプレゼンテーションとディスカッション （日本赤十字看護大学にて共同開催）</p>				
14～15	<p>研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する内容の再検討（各大学）</p>				
<p>■ 準備学習</p> <p>授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>発表に向けた準備状況（30%）、プレゼンテーション（30%）、討議内容および討議への参加状況（40%）で総合的に評価する。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

特別研究科目

科目名	特別研究	選択必修	必修
担当教員	河口てる子、石崎智子、西片久美子、安藤広子、鈴木聖子、山田典子、大西文子、東野督子、山田聡子、野口眞弓、小山眞理子、植田喜久子、眞崎直子、中信利恵子、百田武司、小林裕美、高橋清美、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子、山勢善江、守山正樹		
科目区分	特別研究	単位数	8単位
開講時期	2～3年次 通年	時間数	240時間
		オフィスアワー	教員一覧参照
<p>■ 授業の目的</p> <p>看護学の構築に向けて専門領域における課題について、フィールドワークから研究課題に相応しい研究方法を選択し、研究計画書作成から実施、研究論文作成までの一連のプロセスを踏み研究実践能力を養い、博士学位論文作成に向けた指導を行う。</p>			
<p>■ 授業の概要</p> <p>関心ある専門領域の文献レビュー、研究の前提となる理論枠組みあるいは基盤を明確化し、テーマの選択、研究の目的、研究方法の選択、データの収集、結果の分析、考察など研究の一連のプロセス及び研究倫理に基づいた研究の取り組みについて指導する。</p>			
回	授業内容及び方法		担当
	<p>【授業の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門領域における課題について、先行研究のレビュー、フィールドワークから、研究課題と研究方法の明確化をはかり、研究計画書を作成する。 2 研究計画書の審査と研究倫理審査を受け、研究の実施に向けた準備を整える。 3 研究計画書に沿ったデータ収集および分析を行う。 4 研究の進捗状況に応じ、文献の裏づけ等を行いながら、結果の解釈を深める。 5 博士学位論文を作成する。 <p>【研究指導体制】</p> <p>年度末に特別研究報告書を用いて、主指導教員・副指導教員4名からゼミ形式にて指導を行うが、その間には専門領域の主指導教員から指導を受ける。</p>		
<p>■ 準備学習</p> <p>指導内容を踏まえ、次回の指導までに資料を作成しておくこと。</p>			
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>			
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>			
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>研究論文作成までのプロセスを研究報告書、研究計画書、博士学位論文から総合的に評価する。</p>			
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な参加を期待する。</p>			

研究指導教員名と指導の概要

- ・河川 てる子
看護援助モデルや教育支援モデルなど慢性疾患をもつ人とその家族への援助に関する研究指導を行う。
- ・石崎 智子
療養生活を送る人々およびその支援者のメンタルケアや精神障がい者支援の課題を改善・改革し、療養生活を営む人々がより良い生活を送ることができるような支援に関する研究指導を行う。
- ・西片 久美子
糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる高齢者とその家族の支援に関する研究指導を行う。
- ・安藤 広子
出生前検査や不妊治療における看護、先天性疾患患者とその家族への援助に関する研究指導を行う。
- ・鈴木 聖子
認知症の人と家族の QOL を高める看護援助方法の検証・開発に関する研究指導を行う。
- ・山田 典子
被害者や遺族のグリーフケアを促進するための効果的な看護について探求でき、フォレンジックな課題となる事象の予防やケアシステムの開発について研究指導を行う。
- ・大西 文子
てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の日常生活支援のための看護援助に関する研究指導を行う。
- ・東野 督子
療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や教育プログラムに関する研究指導を行う。
- ・山田 聡子
看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法に関する課題や、臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。
- ・野口 眞弓
在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究指導を行う。
- ・小山 眞理子
看護基礎教育や継続教育における人材育成の方法、新たな教育プログラムの開発、新たな教育方法の開発、組織の改善等についての研究指導を行う。
- ・植田 喜久子
がん患者や家族の療養生活の質の高い看護支援や教育支援モデルの開発に関する研究指導を行う。
- ・眞崎 直子
地域におけるメンタルヘルスや難病等在宅ケアに関する課題について焦点をあてた研究指導を行う。
- ・中信 利恵子
災害サイクルの各期において被災者や救援者に及ぼす影響、質の高い看護活動、救援者自身の支援に関する研究指導を行う。

・百田 武司

脳卒中患者やその家族の健康問題の解決や QOL を高める看護援助方法の検証・開発に関する研究指導を行う。

・小林 裕美

地域で療養する終末期の人を看取る家族に対する看護支援モデルや教育支援モデルの開発に関する研究指導を行う。

・高橋 清美

精神科領域における口腔ケアシステムに関する研究、地域におけるうつ病教育に関する研究指導を行う。

・姫野 稔子

老年期にある対象者の倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入モデルの開発に関する研究指導を行う。

・本田 多美枝

キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行う。

・柳井 圭子

医療安全・医療過誤訴訟を含む看護に関する法政策に関する課題、看護の倫理的問題に関する課題に焦点を当てた研究指導を行う。

・山勢 善江

クリティカルケアにおける生命の危機状態の患者や家族への看護に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。

・守山 正樹

組織・集団、地域・コミュニティにおける健康生活支援の課題について、研究方法を選択、研究計画書を作成して研究を実施し、学位論文を作成するための研究指導を行う。